



郷土のかぜ

仙台市民図書館 郷土資料コーナーから

青葉城恋唄のまぼろし

前広瀬図書館長 菊池 雅人

さとう宗幸の『青葉城恋唄』が発売されたのが1978(昭和53)年5月5日。すでにインディーズから『岩尾別旅情』を出してはいたが、メジャーデビューを成功させるため、ディレクターはダーク・ダックスとの競作とし、話題作りをした。ダーク・ダックス版の発売は6月1日となったが、力の入れ方が垣間見えるジャケットになった。何しろ、シングル盤なのに帯がついたのだ。緑色の下地に白文字が浮き出るようなもので、“78 仙台七夕前夜祭 テーマ曲! 青葉城恋唄”と煽った。

同年6月12日に宮城県沖地震が発生。さとう宗幸が復興ソングとして歌ったり、国鉄(現・JR)仙台駅では特急の到着ごとに同曲を流すなどしているうちに、地元で火がつき、さとう盤が大ヒットとなっていく。詞を書いたのは星間船一だが、同年末には日本作詞大賞を受賞することとなった。有名な話だが、阿久悠の助言で歌詞の「時はめぐりまた夏が来て」の箇所に入れた。「時」はめぐらないので、“とき”には“季節”の漢字をあてたのである。実際のところ、3回出てくるこのフレーズは、レコード番号 GK-201 の初回プレス盤では、“時”となっているが、後発盤(同番号でジャケット違い)で修正がなされた。だが、最初の“とき”にこそ、“季節”にルビがついた“とき”となっているが、2か所目と3か所目は、修正されずに、“時”のままなのである。慌てて直した感が漂っている。余計な話だが、タイトルにある“青葉城”という表現が歌詞の中には出てこない。むしろ『広瀬川恋唄』とする方がぴったりだ。

『青葉城恋唄』は大ヒットし、その後多くの歌手によってカバーされるスタンダード曲となった。これだけの有名作品だからか、8年後の1986(昭和61)年に奇妙な旅情ミステリーが祥伝社から発売される。広山義慶の『青葉城恋歌殺人事件』がそれで、カバーには八木山橋が大きく描かれている。広山義慶はフランス語翻訳や児童文学を書いていた人だが、『夏回帰線』(1983年)でミステリーに転じた。

『青葉城恋歌殺人事件』は、日本画の鬼才と呼ばれた男と銀座のクラブに勤める女性との心中事件を、レンブラントの贋作事件と絡めて描いた長編である。作中には、著者が仙台をかなり調べて書いた形跡があるが、その心中現場が八木山橋というわけだ。しかし、作中にはさとう宗幸の『青葉城恋唄』は登場しない。作中で言う「青葉城恋歌」とは、ある女性が、この日本画家に宛てた恋文の総称なのだった。手紙の場合もあれば、詩の場合もあるし短歌の場合もある。何故、この総称にしたか、画家の最高傑作とされる作品タイトルが「青葉城址」という設定のため、恋文をそう呼んだということなのである。著者が細かく調べたことが分かるのに、こんな箇所がある。“八木山橋の中心線が所轄の境界線になっている関係上、橋の西側と東側では所轄が異なっている。西側は仙台中央署、東側は仙台南署・・・”、つまり自殺者が橋のどちら側から飛び降りたかで所轄が違っていることをわざわざ書いたのだ。しかし、実際は、東側が仙台中央署、西側が仙台南署の管轄である。プロットに影響はしないので、目くじらを立てることもないのだが、仙台人としては気になる箇所では



ある。

『青葉城恋歌殺人事件』は、祥伝社発行から13年後の1999(平成11)年に勁文社で文庫化された。歌謡曲の「青葉城恋唄」とは「うた」の漢字も違いも含めて関係がないだけでなく、便乗企画と思われたくなかったか、タイトルは『贗作の神話』と変更された。新タイトルなら、内容にふさわしいが、所轄の違いの表記の変更はされていない。なお、似たタイトルに辻真先『青葉城殺人恋歌』(2006年)があり、こちらには「青葉城恋唄」が登場する。

<参考図書>

『青葉城恋歌殺人事件』 祥伝社 913.6ヒロ

■ある日のレファレンスから

最近、「昔の商店街にどんなお店があったか知りたい」という質問が増えてきました。

その際、調べるための資料として、プレスアートから発行された『仙太郎の徹底いらすとが いどまっぷ 月刊せんだいタウン情報 4周年記念出版』(1979年)や『月刊せんだいタウン情報 別冊 仙台ストリート大図鑑』(1986年)などが大変参考になりました。

この2冊、商店街にあった当時のお店の外観が温かみのあるイラストで描かれているガイドマップなのですが、現在はビルへと姿を変えた場所も、かつてどのような店構えであったのかが分かり、昭和時代の空気感や商店街の規模が、そのまま伝わってくるようです。

かつて仙台にあったお店などについてお知りになりたい方は、4階カウンターまでお気軽にお申し出ください。

■新着図書紹介(郷土・参考資料コーナーに新しく入った図書)

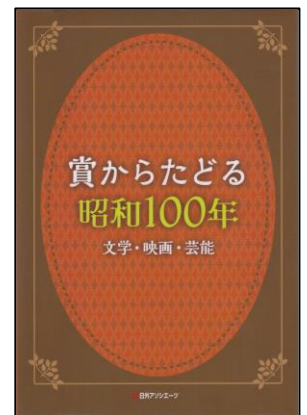
『賞からたどる昭和100年 文学・映画・芸能』

日外アソシエーツ株式会社／編集 日外アソシエーツ R910シ

昭和元年から約100年間(1926～2024年)の受賞記録を集約したデータブックとして、文学、映画・テレビ、音楽から国民栄誉賞に至るまで広範な分野を網羅しています。

この本は二部構成になっており、第一部には年代順、第二部には受賞者別に情報が掲載されており、巻末には人名検索と作品名索引が載っていますので、目的の情報にすばやくアクセスできます。

調べものや研究の信頼できる資料として、幅広くご活用いただける一冊です。



■編集後記■ 今回の「郷土のかぜ」のトップページは、令和7年3月まで広瀬図書館長だった菊池雅人さんにご執筆いただきました。菊池さんは図書館に在職中、広瀬図書館で一般向けの講演会を自ら企画して計4回にわたり講師を務め、昨年、そのうちの3本の講演内容を1冊に凝縮し『図書館長GAZIN菊池の妄想のビートルズと日本文学』(郵研社)として出版しました。現在も執筆活動などで多忙な日々を送っています。一度、図書館で実際にページをめくってみてはいかがでしょうか。

発行: 仙台市民図書館 郷土・参考資料コーナー

所在地: 仙台市青葉区春日町2-1 せんだいメディアテーク内 TEL: 022-261-1585